JAMT
会報 JAMT
JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
社団法人日本臨床衛生検査技師会
発行責任者　小崎繁昭
編集責任者　瀧池正次、小郷正則、下田勝二、山城光俊、及川雅寛、谷口然、高田鈴也
〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
TEL (03) 3768-4722　FAX (03) 3768-6722
ホームページ http://www.jamt.or.jp

イノベーション 25･･･

日本は、本年度から京都議定書の目標達成期間に入った。その国際的約束をどのように果たしていくかが大いに問題視されている。その達成には、全国民参加による取り組みが必要であるが、アクションプランが明確にはされていない。

一方、政府の外交を見ると昨年来より変化の兆しが見えている。昨年５月 25 日にイノベーション 25 戦略会議により策定された「長期戦略指針イノベーション 25～未来をつくる、無限の可能性への挑戦～」にも示されている「美しい国」の実現に向けての国際的理解を進める外交戦略が主体となっている。しかし、先進国首脳会議では、日本は先導役としての役割を担っていたが７月に開催された洞爺湖サミットでは、その成果が十分に得られたか疑問視されている。

低炭素社会は必要か･･･

地球温暖化は人類の最大の脅威であり人類生存の基盤を揺るがすものである。各国や各地域の来るべき世代の経済の発展をも含めたより良い環境を確保し、持続させるかたちを考える必要がある。そのための省エネルギーや省資源などの技術においては、日本は世界でも有数な智恵と技術を有するはずである。したがって日本が低酸素社会を如何に速やかに構築するかは、今後の地球温暖化防止における国際競争にも影響を及ぼし経済の発展へも繋がる道である。

地球温暖化は何時からか？それは、蒸気機関の発明にはじまる産業革命以来地球の温度は上昇し続けている。しかし、文明が発達し便利な社会生活が持続される現代に至り、危機を乗り越えて新しい時代に入っていく意義と意識を共有するには至っていない。日本は智恵と技術を持ち備えてはいるが、環境教育を視点にした場合は世界各国に比べ遅れをとっているといっても過言ではない。たしかに、最近は小学校の教育に環境問題が取り入れられており子供たちも大いに興味を示しているといわれるが、関心を示さない･･･あるいは、関心を抑え(隠す)ているのが大人たちといえる。その実行によるリスクと相当のコスト増を覚悟できないからである。

温室効果ガスは人類の活動が原因であり、産業も国民も全員が加害者といえる。したがって、全てが排出コストを共有し、対策を講じなければならない。その場合、誰かがやればそれで良しという･･･怠ける者が報われ、努力する者が損をするという従来の構図では成しえない事業であり、その削減には「努力する者が報われ、怠ける者が損をする」という仕組みを費用分担の考え方に組み入れる必要がある。日本の各産業界では夫々が独自に持つアクションプランを実行しつつあるが、医療界を見た場合、はたしてどうであろうか？

厚生労働省は、少量製造・取扱いの規制等に係る小検討会を開催した。これは、平成 20 年３月 1 日より特定化学物質障害予防規則（以下特化則）の一部が改正され、ホルムアルデヒドが特定化学物質第３類物質から特定第２類物質になり、来年３月包括的な施行がはじまることを受けたものである。臨床検査を業とする我々臨床検査技師は、生体に有害な危険な物質を扱っていることは間違いない。臨床検査室を中心とする医療従事者の環境整備を行うべきではあるが、これら臨床検査に用いられる有害物質が国民に与える影響も同時に考えるべきである。扱う者の視点から、受ける者の視点へ切り替え、問題を整理することも「扱う者」の責務であろう。

この項　⇒

P01：来るべき世代のために
P02：認定心電検査技師認定試験要項・ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの取り扱い
P03：格差社会の不健康・環境問題対策研修会
P04：天王寺七坂・ジニ係数・血糖測定器の使用上の注意
P05：ひとくち英会話・ちょっと一息
P06：百均の電卓で解ける“統計入門”-1
P07：同-2・バーチャルウォーター(仮想水)
P08：臨検小話＜その7＞・編集室